朝日町センターだより　　平成29年2月発行

Plan Do See

「交換・交流のすすめ」　　朝日中学校　校長　吉田　尚史

かつて、朝日中学校が文部科学省から「道徳教育推進校」の指定を受けていたとき、「中心発問はここではないか」「切り返しの発問はこうではないか」等、職員室内で自然発生的に「道徳」に関わる内容が話題となり、議論が盛り上がったことを記憶しています。自らの考えを示す、意見を交換し合う、多様な考え方を練り合わせる等、教員一人一人が自発的に考えを示す中で、道徳の考え方や、授業展開を誰が仕組んだ訳でもなく、自然に学んだという経験があります。教員相互による意見の交換、学びの交流が確実に存在していたという経験です。

さて、人類が歩んできた進化、発展の軌跡を振り返ってみると、実に興味深いことがたくさんあります。例えば、ネアンデルタール人と現生人類が同時代に生活していました。大脳の大きさは、ネアンデルタール人の方が現生人類より大きかったと言われています。すなわち、ネアンデルタール人は、少なくとも知能的には現生人類と変わらないか、それ以上だった可能性があったわけです。しかし、大きな違いは使っていた石器にありました。彼らの使っていた石器は、すべて生活地域の石を材料にしていたという点です。他の地域との交換を行っていなかったのです。一方、現生人類は、特定の地域でしか採掘できない黒曜石を幅広い地域で使っていました。つまり、材料の交換を行っていたのです。結局、ネアンデルタール人は亡び、現生人類は唯一の人類として生き延びることができたのです。

また、中国で生まれた「漢字」は、他の地域にも幅広く伝播（でんぱ）しました。読み方は変化しましたが日本にも伝わり、漢字のもつ本来の意味は伝わりました。そのため、知識の交換が可能となり、概念を共有する等、漢字を用いて私たちは、文明・文化の伝承を行うことに役立てることができました。

これらのことから、大きな教えがあるように感じています。それは、人が成長し、発展を遂げるには、利点あるもの、進取の考え方、活用できる方途、大切な情報等、成長に必要なありとあらゆるものを交換し、交流し合うことが不可欠であるということです。

教育現場においては殊更です。学校こそ意見交換し合う組織、考えを交流し合う組織であってほしいのです。分からないことは一人で解決できないものです。遠慮せず声に出し、教えを願う姿、そして快く教える姿、また互いに学び合う姿が必要です。若い教員が増えるこれからの学校は、まさしく「交換・交流」がキーワードであると考えます。学校は、子供も教職員も共に学ぶ場所です。様々な「交換・交流」を通して、今後も一層の進化・発展を遂げる組織であり続けて欲しいと願わずにはいられません。

これからの皆さんに贈る言葉

「朝日町を支える若い先生方へ」　朝日中学校　竹内　康彦

本県教育界においては、今後数年以内に約半数近くの教員が退職し、若い世代に入れ替わることが予測されています。このことは、経験豊富なベテラン教員が長年に渡って蓄積してきた知識や技能等の「知の遺産」が若い世代にうまく継承されない可能性があることを意味しています。その結果、全国的にも優秀とされる本県教員の質的低下につながり、ひいては「教育県とやま」の屋台骨が揺らぐのではないかと危惧されています。この「知の遺産」をいかに円滑に引き継いでいくかが本県教育界はもとより、各学校においても喫緊の課題となっています。

私自身、これまで多くの先輩方から実に多くのご指導やご助言をいただきました。当時は、あまり理解できなかった内容も、この頃は身に沁みて考えさせられることも少なくありません。その中のひとつに、「選手（生徒）は、指導者（先生）のようにしかならない」というものがあります。

生徒にとって教師は、長い時間接する数少ない大人の一人です。生徒は、毎日教師の一挙手一投足に注目しています。接する時間の長さに比例して、教師の話口調や行動パターンが生徒にうつったり、考え方までよく似てきたりします。このことからも私たち教員は、生徒の人格形成に多大な影響を与えていることが明らかであり、改めて教職の職責の重さを痛感させられます。周知の通り教員には、自己の崇高な使命を深く自覚し、その職務を遂行するために絶えず研修と修養に努めることが義務づけられています。常に謙虚な姿勢で自己研鑽に励み、目の前の子どもたちの健やかな成長のために「師弟同行・率先垂範」する教員でありたいものです。

わたしたち朝日町で勤務する教員には、朝日町の未来を創る子どもたちの健全育成という大変大きな責任が課せられています。朝日町の未来は、わたしたちの教育にかかっていると言っても過言ではありません。

さあ、気概をもって日々の教育に勇往邁進していこうではありませんか。

「若いエネルギーをもらいながら」　あさひ野小学校　大藏　慶子

ここ数年で職員室がぐんと若くなって、こんな私でも年齢だけはベテランといわれるようになってしまいましたが、自分にも若いときがあったなあと昔のいろいろなことが思い出されてきました。若いころは保護者の方が年上で、子供を育てたことがない私のことを信頼してくださるのだろうかという不安がありました。子供になめられてはいけないと威張っていたような気がします。しかし、先輩の先生から、「若さは一つの技術だよ。」と励まされ、子供たちとよく遊びました。中堅になって、「授業技術を高めたい」とか「学級経営がうまくなりたい」と思い、いろいろな書物を読み、追試してきました。そして、ベテランといわれる今でも、子供が「楽しかった」「すごく考えた」と言ってくれる授業をしたいと考え、あれこれ悩んでいます。

思えば、私が楽しく教師をし続けることができたのは、一緒におしゃべりしたり、遊んだりしてくれる同僚の先生方や友人がいたからだと思います。職員室は、相談するところであり、井戸端であり、時にはカフェでした。コーヒーを飲んだり、お菓子をつまんだりしながら、授業方法のことや子供のトラブルのこと等いろいろな話ができました。自分を支えてくれたり、励ましてくれたりした仲間には感謝しています。

先日、教え子に誘われて、飲み会をしました。教員になっている子や教員を目指している子供たちです。（子供とは失礼かな？）こんな日がやって来るなんて考えたことがありませんでした。

かつて勤務した学校の校長先生に「今の給料の半分になっても教師を続けていけるか。」と聞かれたことがありました。私は「続けていきたいです。」と答えたと思います。私にとって、子供たちと授業をすること、成長した子供たちと話をすることが楽しみであり、生きがいなのかもしれません。これからも私は、若い先生方や若い子供たちから、若さというエネルギーをもらいながら、子供たちと学んでいきたいと思います。

「眼力のレベルアップ」　　さみさと小学校　中嶋　裕也

「手に取る。戻す。手に取る。戻す。」
最近、教育書を読むのが怖い。もちろん、視力が衰えたということではない。初任のころは、どのような書物も読み、実践に取り入れようとしていた。だが、今は自分と同じような考えが書かれている書物しか手に取る勇気がない。そうではない書物は、
「君は違う」
とばかりに、ものすごい勢いで本棚に戻す。自分の今やっていることが否定されるようで怖いのである。
本稿を書くに当たって、ふと客観的に自分を見つめる機会になった。いつも、学級では「まずは素直に真似ることが大切」と言っている自分と相反する自分がいたことに気付かされることとなった。教職年数を重ねるということは、初任と比べ、視野も広く、眼力もよくならないといけないのに、自分の眼は年々衰えているような気がした。年数を重ね、成長していると実感している面ももちろん感じているが、成長を阻害する要素も年々大きくなっていたのである。
眼力を高めることも、高めないことも心がけ一つである。自分は、でき始めた殻を少しでも破らねばと思い、この稿を書いているさなか、ひさしぶりに書物を一冊購入した。その本には「自分の言動には責任を果たす必要がある」趣旨のことが書いてあった。本稿を書いたということは、「自分が周りの苦言も素直に取り入れて成長する」ことの狼煙であろう。ひさしぶりに本が教えてくれた「責任」という言葉を胸に、「子供を見る」「子供が見える」教師を目指したいと思う。

海外視察・内地留学を終えて

富山経済同友会　第６回　海外教育事情視察

■期間：平成28年9月18日～24日　場所：フィンランド・ヘルシンキ、デンマーク・コペンハーゲン

「教員でなく教師であれ」　　さみさと小学校　川田　彰

今年度、「海外教育事情視察」という機会をいただき、北欧の２か国に１週間訪問した。この経験は、私にとって大きな節目となる貴重な財産となった。
視察では、「世界一の教育の国」と言われるフィンランドと「世界一幸福な国」と言われるデンマークの教育制度や文化等に接し、日本との違いに驚いた。
教育制度の面では、国家教育委員会が、国家の宝を育てる指導要領の大枠のみを示し、学習指導過程の作成や教科の分配、指導内容等の権限を現場の学校にすべて委ねていた。つまり、各学校が独自で学習指導過程を決め、指導内容を吟味し、運営していくシステムなのである。
現場を視察してみると、子供たちが実に生き生きと学習に向かっていた。一番の要因は、「教師としての志の高さ」であると思った。教師は、生徒にどんな力が必要かを常に考え、学習指導過程を細かくプログラムし、実行していた。これは、見方を変えれば学校・学級間の差を招く欠点にもなりうるのだが、教師としての自覚と願い、そして大きな責務を日本の教師よりも受け入れながら、日々の教育に邁進しているように思えた。だからこそ、子供たちが「師」と仰ぎ、尊敬する職業・やりがいのある職業として根付いているのだということを感じた。
私は、これから国の宝である子供たちに学問を学ぶことの楽しさ、社会における正しいルール、道徳心、夢への挑戦など生きていく上で大切なことをしっかりと伝え、導いていけるような志の高い教師を目指して努力していきたいと思う。そして、常に広い視野で物事を見つめ、見通しをもった言動ができる教師を目指していきたい。

■期間：平成28年4月1日～9月30日　　場所：富山大学人間発達科学部

「心と時間の余裕」　　朝日中学校　嘉志摩　優作

数年前まで、趣味は読書でした。年間４０冊くらいの本を読んでいましたが、最近は全くできていませんでした。忙しい毎日が当たり前になり、自分の趣味に時間をかけることができず、気が付くと趣味が１つなくなっていました。

半年間の内地留学期間中、たくさんの本を読みました。その多くは不登校や子供の問題行動に関するもので、これまであまり読むことのなかった分野でした。時間が経つのを忘れるほど夢中になっている自分がいました。ここ数年、子供との関わりの中で「何かがおかしい」という違和感のようなものを感じていました。しかし、立ち止まって考える余裕がなかったのです。「分からないことをそのままにしない」。生徒によくかける言葉ですが、自分自身ができていませんでした。自分が感じていた違和感に対して、「そういうことだったのか」と自分なりに納得できることが、本を読んでいるときに何度もありました。そのとき、読書の大切さというより、仕事の在り方について考えさせられました。違和感の答えが見つかったのは読書をすることができたからではなく、それよりは読書の時間をつくることができたからの方が正しいのではないかと考えました。

振り返ると、この２年間はとても忙しかったです。「心を亡くす」と書いて「忙しい」というように、目の前の仕事をただこなすだけになっていました。先生に余裕がないと、授業や教室でうまくいかないことが増えて当然だと思います。心の余裕と時間の余裕。内地留学中、その２つの余裕を感じながら過ごすことができました。今思えば、その期間一度も怒ったことがありませんでした。怒らないと普段の表情も柔らかくなります。人はやはり習慣の生き物なのだなと思いました。「怒りを感じたときは７秒我慢する」、すると気持ちが落ち着くということも内地留学中の読書を通して学びました。現場に復帰して実際に試してみました。「これは使えるな」と実感しました。

読書が再び趣味になり、さらにもう１つ趣味ができました。けん玉です。けん玉が得意な大学の先生に教えてもらいました。最初は遊びでしたが、いろんな技ができるようになりました。たくさんの失敗を重ねたあとの「できた喜び」が練習を続ける力になりました。うまくいっていないときは、自分に前向きな言葉をかけました。するとリラックスできます。これも読書から学んだことです。

内地留学を終え、部活動を週休２日にしました。心と時間に余裕をもたせるためです。それでも忙しいですが、休みがあると前向きに捉えています。

朝日町教育委員会派遣内地留学

■期間:平成28年10月1日～12月31日　場所:富山大学人間発達科学部

「学ぶ」　　朝日中学校　飯田　澄代

内地留学での生活は、私にとって自分を見つめ直し、振り返るよい機会となりました。「臨床心理学」「コミュニティ心理学」「発達臨床心理学」「生徒指導論」の講義は、子育てや教育現場と大きく関わっているものが多く、９０分と長い時間でしたが、あっという間に過ぎ、学ぶことの楽しさを感じました。教える立場から学ぶ立場になって、やはり教師には、豊富な専門的知識と教え方の工夫が大切なのだと気付きました。

講義や研究室でのゼミでは、最初、専門的な言葉や聞き慣れない語句にとまどい、知識のなさに恥ずかしく思うことも度々ありました。「言っていることが分からない」、そんな思いで過ごしていました。しかし、文献を読んだり分からない言葉を調べたりしているうちに、少しずつ言葉の意味が分かるようになりました。内地留学生の方との授業では、互いの考えや意見を聴き合うことで、自分とは違った視点や観点から物事を捉えていることに驚かされ、人の考えや価値観に耳を傾けることも大切だと分かりました。人間味のある方ばかりで、教育に対する熱意や子供たちを思う愛情に触れ、よい刺激になりました。

また、少年鑑別所、児童相談所、富山学園を訪問し、心がすさんでいる子供たちや保護しなければならない子供たちの話を聞き、とても心が痛みました。それゆえ、子供を取り巻く環境や家族の愛情の大切さ、人として生きていくには枠（ルール）が必要であることも痛切に感じました。

今まで多くの子供たちと関わってきましたが、もっと子供の心の声を聴いてあげればよかったと思っています。「カウンセリング」の理論や技法は難しく奥が深いことが分かり、入り口に立って門を開けたところで終わってしまいました。

「カウンセリング」は、子供との関わりだけではなく、授業や学級経営に活かすことができます。今回、改めて学ぶことの大切さを知り、それを実践していくことの意味を強く感じています。今後も時間を見つけ、自己研鑽を積んでいきたいです。

おしらせ　以前にも紹介しましたが、朝日町教育センターには、カウンセリング関係の書籍がたくさんあります。一度立ち寄り、手に取ってご活用ください。

「学級経営力を高める　教育相談のワザ１３」「人間関係スキルアップワークシート」「グループアプローチで学級の人間関係がもっとよくなる」「不登校支援と未然防止」「実践学校カウンセリング２０１６」など。

今年度の研究

■富山県小学校教育研究会保健部会

「みんなでまめなけ あさひ野っ子」　あさひ野小学校　水島　真寿美

♪あ～さ～ひま～ち　音楽が流れると、自然に体が動き出す。本校の心と体の健康づくりのキャッチフレーズ「みんなでまめなけ あさひ野っ子」にぴったりの音楽である。本校の子供たちほど、この歌を聞き、この歌に合わせて体を動かし、「まめなけ」の言葉を聞いて心と体の健康を意識した子供たちはいないと思う。

昨年度より２か年にわたり、富山県小学校教育研究会保健部会の指定を受け、「主体的に実践していく子供の育成」を研修主題に、心と体の健康づくりに取り組んできた。昨年度の研修を踏まえ、今年度は、子供の実態を多面的に捉えて、子供にとって必要感・切実感のある課題を設定した上で、単元構想の工夫や家庭との連携、付けたい力がどれだけ身に付いているかを子供・教師共に実感できるような評価等についてさらに研修を進めた。授業だけでなく、委員会活動や校内掲示の工夫、学級での人間関係づくり、地域社会の協力を得た授業や学校行事等、教育活動全体を通した取組は子供たちが心と体の健康の大切さについて考える大切な機会となった。

私たちが意識してきたことは、子供たちがまず「自分事」として健康課題を捉えること、そして実践を「継続」することである。そのためには子供たちの実態を的確に把握し、課題を明らかにすることが大切である。自分事として捉えてこそ、子供たちは本気で考え、本気で実践に取り組む。

２年生は、年間を通したテーマ「まめなけ列車を走らせよう～〇〇さくせん～」を設定して保健指導を行った。ランチルームで私と同じテーブルで食事をしている２年生の女子がいる。「まめなけ列車を走らせよう～ペロリンさくせん～」では、「苦手な魚を食べる」という目当てを立てた。「顔がなかったら何とか食べれるんやけど」と言いながらも、魚が出た日には、「先生、これだけ食べたよ。あと少しなが。」とがんばっていた。担任はその傍を毎日通り、「〇〇ちゃん、どう？魚やけど・・・」と声をかけていた。彼女の取組を見守り、励ますことを継続する教師の存在。この姿こそが実践の継続、将来の健康づくりにつながると確信する。

「みんなでまめなけ　あさひ野っ子」をキャッチフレーズに取り組んできた２年間の研究は、子供たちにとっても私たち教職員にとっても大変意義のあるものとなっている。何より本校の教職員が「チーム」となり、前向きに明るく研究に取り組む姿こそ「みんなでまめなけ」につながっていると考える。子供たちの「まめなけ」スイッチが上手く入るように、私たちは、子供たちの心と体に電池の点検と補充を継続したい。今後もこのキャッチフレーズ「みんなでまめなけ　あさひ野っ子」が子供たちの心にしっかりと根付き、その成果が子供たちの将来へとつながっていってほしいと願っている。

■学力向上市町村教育委員会プラン研究委託事業実践研究拠点校

「子供たちの温かい関わりを目指して…」　さみさと小学校　上野　裕美

「私の好きな教科は算数です。計算が得意だからです。」「そうなんだ。」「だから、もっと上手になるために自学では、算数をよくしています。」「それで、それで」というようなペアトークを子供たちの「聞く・話す」力を高めるために、全校で朝の活動で取り組んできました。どの子供も活動に取り組めるように具体的にあいづちの仕方が明示された「質問の技カード」を用いて行ってきました。「ペアトーク」に慣れくると、互いの思いを聞き合うことが和やかにできるようになり、授業の中の問題解決場面でも「ペアトーク」を効果的に取り入れることで、仲間の話を聞いて考えることができるようになってきました。

また、「さみっこなかよしタイム」を設定し、「エンカウンターやソーシャルスキル」を取り入れて「温かい人間関係づくり」に全校で取り組んできました。

（「さみっこなかよしタイム」ふりかえりカードより―児童の感想―）

○　相手の話を聞いていたら、「そっちはそういうよさがあるな」と共感できました。みんなの新たな一面が分かりました。相手の論を受け止められてよかったです。
○　普段やらない人といっぱいやれて、人間関係がよくなったと思いました。すなおに「ありがとう」と言ってもらえてうれしかったです。

この活動を通して、「子供たちは、共感したり、気持ちのつながりを感じたりしながら、仲間や自分のよさを知り、人とつながる心地よさを味わっている。」と感じています。

本年度、さみさと小学校では、「人間関係を豊かにしたり自己肯定感を高めたりすることで、共に学び合う温かい集団をつくり、子供の学習意欲を高める」と考え、実践してきました。「ペアトーク」「人間関係づくり」に加え、様々な縦割り班活動等を通して、今まで以上に温かい関係が築かれ、子供たちは落ち着いて学習に取り組み、学校生活を送っています。本校の先生方が同じ方向に向かい共通実践してきたからだと思います。

読書案内～「力」をつけよう

道徳の本シリーズ

【小学校・中学校版】

【小学校・中学校版】

【小学校・中学校版】

【低・中・高学年版】

どの本も「教科化」道徳の授業にすぐに使える。なかでも**「板書で見る全時間の授業のすべて」シリーズ**は中学校用はないが、中学校の授業計画に十分生かせる。必読。

作文指導・特別活動・生徒指導・ソーシャルスキルトレーニング

小学校　クラス全員がスラスラ書ける技と型が満載
書けない子をゼロにする作文指導の型と技
著者　岩下　修　　発行　明治図書

作文が好きな生徒は、ほとんどいない。というより大多数の生徒が、文を書くことに苦手意識をもっている。読書感想文を書かせるから、読書をしなくなるという、「風が吹けば桶屋がもうかる」式の説まで飛び出すほどだ。子どもから大人に至るまで、「作文」にアレルギー意識をもつものが多い。知の伝道者たるべき教師に至っても例外ではない。その教師がテーマを与えて「さあ自分の考えを書け」と言ったって、読みごたえのあるものは書ける道理がない。計算問題なら解き方を示さないで、「さあ、解け」とはならないでしょう。

筆者は、従来の「定説」、「常識」を一刀両断にする。例えば、「考えがまとまったから書けるのではなく、書くことによって思考のエンジンがスタートする」「タイトルは最後にまとめの言葉を使って」、型にこだわり「字数や構成の制約は施行と創造をもたらす原動力」など、いわゆる「常識」に異議を申し立てる。そういう意味では「作文論」としても読めるので、中学校の国語教師はもちろん生徒に作文を書かせたいと思う、学級担任に必読の書である。作文を「説明的作文」「物語風作文」「小論文作文」の３つの型に分け、書き方とそれに沿って書かれたモデルとなる作文を挙げている。なかでも「読書感想文の書き方」は使いたいと思った。

基本の型を身につけることと、モデルを絶えず示すことの重要性を筆者は訴えている。

※筆者の「授業を成立させる基本技６０」は音読指導、説明文読解、文学読解などの基本技が載っているので、併せて読めばよい。中学校国語科の指導にも生かせる。

小学校　自分を鍛え、集団を創る！
特別活動の教育技術
著者　文部科学省教科調査官　杉田　洋　　発行　小学館

特別活動は、教科指導と違い、大学で専門的に学ぶことが少なく、その後も専門的な研修を受ける機会もあまりない。教員採用が少ない時期が続き、教師から教師へと伝えられてきた、特活の理念や指導法が多くの学校でうまく伝わらず、指導できない教師が多くなってきている。

そんな現状をふまえて、本書は若い先生に向けて、特別活動担当の文部科学省教科調査官が、特活の理念を始め、実践的指導法のノウハウを図式化（ポンチというそうだが）して、わかりやすく書いている。

「話し合い活動」の活動計画の作成方法や具体的な話し合いのパターン例、可視化した板書例など、中学校の学級担任にもおおいに参考になるだろう。また巻末資料の指導案と授業参観の視点はすぐに使える。

小学校の学級担任に向けに書かれてあるが、中学校の学級担任が「特別活動とは何か」を学ぶ入門書としても最適の一冊である。

小・中学校　図とイラストですぐわかる
教師が使えるカウンセリングテクニック80
著者　悩める教師を支える会代表　諸富　祥彦　　発行　図書文化

本書は忙しい現場の教師が、学校ですぐに使えるカウンセリングテクニックを、図やイラストを使ってわかりやすく説明したものである。今はやりのアドラー心理学からグループワーク、クラス会議まで様々なカウンセリング技法が簡単に学べるようになっている。

「不登校対応」「いじめ対応」「学級の荒れ」から「保護者対応」「メンタルヘルス」にいたるまで学校で起こる考え得る全てに対応できるようになっている。「いじめられている子に対する禁句」、「はい仲直り、握手は×」「不登校対応は最初の３日が勝負」など、以前は先輩教師から学べたことが項目別にもれなく載っている。

単なるマニュアル本とは違い、「年に一度は自分自身の魂が震える〝本気の授業〟を行うことが教師の務め」や「事なかれ主義でなく〝事を荒立てる〟こと」など、教師としての根本姿勢も学べる。

読み始めると、一気に読め、希望が湧いてくる。

小・中学校　若手教員の力を引き出す

研修で使える生徒指導事例50

著者　国立教育政策研究所　藤平　敦　　発行　学事出版

本書は国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター 総括研究官である筆者が、小・中・高校における若手教師が直面した事例に対して、全体的に解説をするとともに、具体的な言動に対してアドバイスをしたものである。

学校現場で若手教師が直面する５０の事例を「児童生徒理解」「学級経営」「生徒指導」に分けて、それぞれの事例に対して、明快にかつ的確に考え方と対処の仕方を示している。

それぞれの事例に出てくる若手教師は、熱意があり、意欲的である。それ故筆者は行動を一方的に否定することなく、よい点と改善すべき点をポイントとして挙げている。すぐに実践できそうだ。

なかでも「いじめの判例をもとに教材を作成し授業を行った小学校新採教師」の事例や、「未経験の剣道部の顧問になり、剣道教室に通った中学校新採教師」の事例、「生徒指導主事になり、違反キップを交付し指導する、５年目の中学教師の事例」を読むと、学校の未来に希望がもてる。

一気に読めるので、今すぐ手に取って読んでほしい。

小学校１年生～３年生　ＳＳＴボードゲーム　２～６人

『なかよしチャレンジ』

ぎくしゃくした友達関係を楽しくする力を育てるゲーム

ＳＳＴ「フレンドシップアドベンチャー」の小学校低学年版。「自分の気持ちが伝えられない。」「どうやって仲直りすればいいの？」「ほんとは、仲良くしたいのに、お互いに悪口ばっかり」「言い分が通らないとつい、かっとなっちゃって…。」「困ったことがあると、逃げたくなる」関係づくりの苦手な、今どきの子供たちの悩みに答え、いろいろなトラブルにチャレンジする子供たちが増えることを願って開発されたゲーム。

子供たちが日常体験しているトラブルを「地域」「授業中」「給食・掃除」「休み時間」の４場面から選び、200枚のカードにしてある。カードには、ソーシャルスキルの基本である「ストレスマネジメント」「助けを求める」「アサーション」「対立解消」の４つの要素が含まれている。

すごろくのように順番にさいころを振り、駒を進め、字の書いてある青いマスに止まったらその指示に従い、絵の描いてあるマスに止まったらその絵のカードを引いて質問に答える形式で、ゲームを進める。「考え」「気持ち」「行動」の３つのステップに沿って行うことにより、ソーシャルスキルが身につくようになっている。

中学校ＤＶＤ　教育映像祭優秀作品賞

悩まずアタック！　脱・いじめのスパイラル

文部科学省選定　　制作：東映教育映像部

この映像は第３１回全国中学生人権作文コンテストで法務大臣政務官賞を受賞した作文をもとに作られた資料なので、非常にリアリティがありました。生徒は映像を食い入るように観ていて、自分の身近なことのように捉えている様子でした。３３分という短い時間のなかに、主人公を取り巻く友人や両親、担任や学年主任なども登場し、たくさんの示唆がある資料です。教師目線から捉えられている場面もあり、生徒理解の在り方について私自身考えさせられることの多い映像でした。下記に抜粋した生徒の感想を見て、生徒に考えて欲しいことを直接的なメッセージとして伝えてくれた映像でした。先生方もご覧ください。（朝日中　相田健悟 教諭）

【朝日中学校１年１組の生徒の感想】

・いじめは１人で悩まずに先生や家族にしっかりと言って、自分でため込まずやっていけばちゃんと解決することや、ちょっとしたからかいや悪口が人に傷をつけるということがあらためてわかりました。僕もこれから人の気持ちを考えて行動したいと思いました。（男子）

・いじめは、いじめている方は気付かないのだということが分かりました。気付かないうちに人を傷つけているのだと知って少しこわくなりました。いじめなんてするわけないと思っていても、相手が傷ついていたら、いじめなんだと思います。（女子）

平成28年度　朝日町小中学校研修会___委員会・調査員の皆さん

□　朝日町教育センター運営委員

小中学校長会	代表	吉田　尚史
小教研	代表	佐竹　隆太
小中学校	代表	山崎　康樹
教頭会	代表	大野　晴美
教務主任会	代表	谷口　正浩

□　朝日町学力向上推進委員会

朝日中学校	竹内	康彦（会長）
朝日中学校	阿部	伸彦（国語）
朝日中学校	山田	智徳（算数・数学）
あさひ野小学校	水島	真寿美（国語）
あさひ野小学校	舟本	麻衣（算数・数学）
さみさと小学校	伊藤	美静（国語）
さみさと小学校	上野	裕美（算数・数学）

□　朝日町小・中美術展実行委員

朝日中学校	吉田	尚史（委員長）
朝日中学校	山崎	美津子
あさひ野小学校	山下	雄己
さみさと小学校	能登	千春
さみさと小学校	谷口	優稀

□　文集「青空」編集委員会

さみさと小学校	山崎	康樹（委員長）
さみさと小学校	四杉	貴美
さみさと小学校	伊藤	美静
あさひ野小学校	髙倉	昌美
朝日中学校	阿部	伸彦

□　朝日町書き初め展実行委員

あさひ野小学校	兵庫	秀典
さみさと小学校	上野	裕美
さみさと小学校	鍋島	朋子
朝日中学校	米田	歩

□　特別支援教育研究会委員

あさひ野小学校	高倉	昌美
さみさと小学校	四杉	貴美
朝日中学校	山崎	美津子

□　朝日町学校教育運営研修会企画委員

あさひ野小学校	佐竹	隆太（会長）
朝日中学校	竹内	康彦（副会長）
朝日中学校	谷口	正浩
あさひ野小学校	大森	敦
さみさと小学校	能登	千春

□　郷土教育教材開発研究調査員

あさひ野小学校	大野	晴美（委員長）
あさひ野小学校	大藏	慶子
さみさと小学校	上嶋	早織
さみさと小学校	鍋島	祥平
朝日中学校	岩﨑	將展

□　情報教育研究調査員

さみさと小学校	内山	真之（委員長）
さみさと小学校	青嶋	浩
さみさと小学校	松井	和貴子
朝日中学校	廣川	平
朝日中学校	山田	智徳
朝日中学校	山本	賢
あさひ野小学校	中島	亮

□　外国語活動推進委員会

朝日中学校	谷口	正浩
朝日中学校	吉田	亜沙奈
あさひ野小学校	舟本	麻衣
さみさと小学校	高澤	朋美

□　朝日町小中学校児童作品展実行委員

さみさと小学校	山崎	康樹（委員長）
さみさと小学校	石浦	嘉寛
あさひ野小学校	舟本	麻衣
朝日中学校	山本	賢

発行：朝日町教育センター

〒939－0743
富山県下新川郡朝日町道下1053－1
TEL　(0765)83－0279
FAX　(0765)83－0279
E-mail　asahi-ec@tym.ed.jp
Webサイト　http:www.asahi-c.tym.ed.jp/